２００３年1月１４日

淀川水系流域委員会

委員長　芦田和男　　様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人　須田　稔

防災を考える市民の会
代表　　志岐　常正

天ヶ瀬ダム再開発計画（１５００㎥／秒放流計画）の中止・再検討の要請

淀川水系流域の重要問題に関しての御骨折御苦労様と存じます。

この件に関し、私たちは大きな疑問を有しており、取り急ぎ表記の要請をおこなうのものであります。

１２月１３日付け朝日新聞は、「淀川水系５ダム見直し」「国交省方針、中止の可能性」の見出しで「国土交通省近畿地方整備局は１２日、淀川水系で整備中の五つのダム事業を見直す方針を明らかにした。今後の河川整備計画について住民らの意見を聴く淀川水系流域委員会（委員長＝芦田和男京大名誉教授）の部会に示した。」「同委員会はダム建設を認めない内容の提言をまとめる方向で協議しており、淀川水系で『脱ダム』が進む可能性が出てきた。見直し対象は丹生、大戸川、余野川、川上、天ヶ瀬の５ダム。」「同整備局はこの日、・・・猪名川部会に提出した資料に、ダムについて『計画の内容を見直す』と明記した。」「今後２０～３０年間を視野に入れた淀川水系河川整備計画の策定に向けて、同委員会は『ダム建設を原則的に抑制する』『建設する場合は住民の合意が得られた場合に限る』との提言を年明けにもまとめる方向。ダム建設に厳しい歯止めをかける内容だが、同整備局は『提言は尊重する』との立場を示している」と報道しました。私たちは本当にうれしく思い、貴委員会の答申が待ち望まれる状況でした。

しかし、去る1月１０日の地元京都府宇治市の新聞・洛南タイムスは「天ヶ瀬ダム開発見直し問題で」の見出しで「昨年１２月に急浮上した同ダムを含めた淀川水系５ダムの計画見直しについて、国土交通省の諮問機関・淀川水系流域委員会が『自然環境へ及ぼす影響が大きい。原則、ダム建設は認めないが、改修計画のある天ヶ瀬ダムは環境への大きな影響がない』など、委員会としてとりまとめる提言内容がここ数日にわたって報道されたことを受け、近いうちに関係流域自治体に、計画変更点での内容説明がなされてくるのではないかとして、」と報道し、また地元の新聞・城南新報では「どうなる！？天ヶ瀬ダム再開発」「委員会提言『ダム開発、原則凍結』淀川水系」の見出しで、記事の中で「委員会の一人は『天ヶ瀬ダムは環境への大きな影響がないが、残りのダムは水需要の減少や他の治水対策によって必要性が低く、中止される可能性が高いのではないか』との見方をしているとのことだが、」と報道しました。

天ヶ瀬ダムの再開発・１５００㎥／秒放流は環境に大きな影響がないどころでなく、下に記すとおりすでに宇治市域ではたいへんな問題を引きこしています。

私たちは、貴委員会に次の点で天ヶ瀬ダム再開発・１５００㎥／秒放流計画の中止・再検討することを提起していただくよう要請するものであります。

第１に、宇治川は宇治上神社・平等院という二つの世界遺産のバッファゾーンを形成しています。宇治川の自然景観と宇治上神社・平等院など世界遺産を含む歴史的建造物群とその景観は一体のものです。これらは宇治市の都市格を決定付けるものです。

それゆえに宇治川の自然景観・歴史的景観を大きく変えてしまう宇治川改修計画は宇治市議会でもたびたび問題となり、市民の間でも大きな疑問を呼んでおり、再検討を求める声、反対の声があります。とりわけ宇治橋から上流の地域が問題です。

１２月１５日開催された宇治市都市景観審議会主催の景観シンポジュウムで宇治川は宇治の景観の背骨として位置付けられ、平等院周辺一体は宇治の景観の心臓部でありこれを守らないと死んでしまうとまでいわれており、その後の宇治市都市景観審議会の審議でも同様の認識がなされています。

宇治川改修工事によって、古くは橘島と塔ノ島が東側約半分を削り取られましたが、最近では、本流の河床掘削への対策として①天ヶ瀬吊橋から塔ノ島まで宇治川左岸に沿って１キロメートル以上の石積みの導水管が敷設され、自然の右岸と比べてひどい景観破壊がなされました。②さらに塔ノ島が石積み仕切り堤防によって左岸とつながれ、島が島でなくなり、喜撰橋から上流の景観は見るも無残な有様となり、派川は水量が極端に減少して藻が繁殖し、時には悪臭で観光客から苦情がよせられています。これは景観破壊どころではなく宇治の環境の大破壊であります。

宇治川改修工事はいよいよ最終段階に来ています。塔ノ島周辺の宇治山田地区(亀石から観流橋)では、いま、宇治川の河床を数メートル掘削する工事を前に護岸工事が行われています。名勝「亀石」周辺の景観は台無しとなります。宇治川を埋め立て公園化する護岸工事は直ちに中止し、再検討する必要があります。

その上、河床の掘削が行われると宇治の生命としての宇治川は事実上死ぬでありましょう。いまならまだ宇治川は再生の可能性がありましょう。

第２に、もしこの計画が実行されたならば、１５００㎥／秒の放流は下流域の水害の危険性をなくすのではなく逆に増大させるおそれが高いと考えられます。１５００㎥／秒の放流は宇治川がかって経験したことのない通水量です。河川幅を拡大し、堤防工事をおこなったといってもその安全性には疑問があります。とくに、支流の山、川城や旧巨椋池域からの宇治川の排水をどう保証するかは非常に大きな問題ではないでしょうか。

今急いでやるべきは人為的な１５００㎥／秒の放流でなく、下流の堤防の漏水対策工事を完全に急いでおこなうことであると考えます。

天ヶ瀬ダムの１５００㎥／秒放流が宇治川改修工事の根拠です。がしかし、１５００㎥／秒放流はいまやその必要性の根拠となっていた琵琶湖岸浸水の解消と水需要増大とが大きく変化しています。

以上により、貴委員会が宇治川をとりまく現況をご賢察の上、天ヶ瀬ダム再開発計画（１

５００㎥／秒放流計画）の中止・再検討を答申されることを、強く要請するものであります。

以上